

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外山, 義典 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009579

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

そとやま よしのり
外山 義典（水産資源研究所 さけます部門 事業課）

2022 年の北太平洋

漁獲数

2023 年に公表された NPAFC 統計データによると、2022 年 1～12 月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は 3 億 5,391 万尾で、前年 6 億 6,124 万尾の 54%でした（図 1A）。

魚種別に見ると、カラフトマスが 1 億 7,947 万尾で最も多く、全体の 51%（前年比 34%）を占めています。次いでベニザケが 9,336 万尾（構成比 26%，前年比 132%），サケが 7,441 万尾（構成比 21%，前年比 134%）と続き、これら 3 魚種で全体の約 98%を占めています（図 1A）。地域別では、アラスカが 1 億 6,367 万尾（前年比 70%）と最も多く、次いでロシアが 1 億 5,432 万尾（前年比 38%）と両地域で全体の 90%近くを占めています。以下、

日本 3,135 万尾（前年比 161%），アラスカ以外の米国（ワシントン，オレゴン，カリフォルニア，アイダホ州）244 万尾（前年比 135%）カナダ 209 万尾（前年比 301%），韓国 5.3 万尾（前年比 78%）と続いています。日本とアラスカ以外の米国，カナダの漁獲数は増加しましたが，アラスカとロシア，韓国は前年に比べて減少し，特にロシアは前年比 38%と大きく減少しました（図 1B）。

人工ふ化放流数

2022 年 1～12 月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は 50 億 281 万尾で、前年 50 億 7,265 万尾の 99%でした（図 1C）。

魚種別ではサケが 29 億 7,048 万尾で全体の 59%を占め、これに次ぐカラフトマス 13 億 9,934 万尾と合わせると全体の 87%以上を占めます（図 1C）。

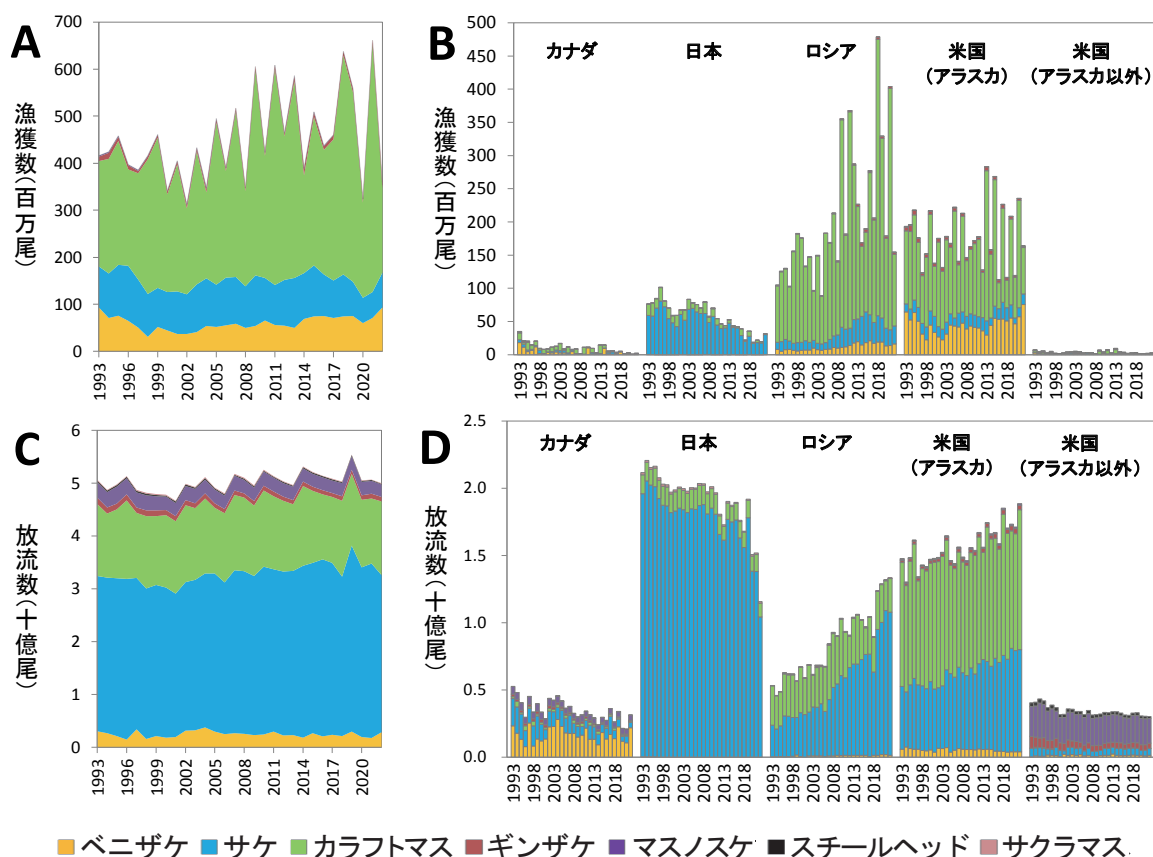


図 1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A)，地域別魚種別の漁獲数 (B)，魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)。

A 及び B は「NPAFC Catch Statistics (updated 24 July 2023).」，C 及び D は「NPAFC Hatchery Release Statistics (updated 24 July 2023)」より作成（参照 2023-10-6）。アラスカ以外の米国はワシントン，オレゴン，カリフォルニア，アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数とも僅かなため図中では省略。

地域別ではアラスカ 18 億 8,577 万尾、ロシア 13 億 3,266 万尾、日本が 11 億 5,594 万尾、カナダ 3 億 1,323 万尾、アラスカ以外の米国 3 億 211 万尾、韓国 1,311 万尾となっています（図 1D）。

2023 年漁期の日本

サケ

2023 年漁期（2023 年 8 月～2024 年 2 月）の来遊数（沿岸漁獲と河川捕獲の合計）は 1 月 20 日現在 2,285 万尾（前年同期比 67%）となりました（図 2）。このうち北海道では 2,257 万尾（前年同期比 67%）、本州太平洋側では 10 万尾（前年同期比 26%）、本州日本海側では 18 万尾（前年同期比 41%）と、いずれも前年を下回っており、本州は引き続き低い水準となっています。採卵数は 1 月 20 日現在で 13 億 1,933 万粒（前年同期比 86%）となりました。このうち北海道は計画数の 108% と上回りましたが、本州太平洋は計画数の 13%、本州日本海は計画数の 61%といずれも下回りました。採卵計画数を下回った本州へは北海道卵の移植が実施されましたが、全国の放流数は計画（12 億 4,633 万尾）を下回ることが見込まれます。

カラフトマス

カラフトマスは 2 年で回帰するため、偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると、奇数年級の来遊数は 2007 年から減少傾向を示し、2023 年漁期（2023 年 7 月～11 月）は 14 万尾（前年比 25%）と、1969 年以降で最低の来遊数となりました（図 3）。偶数年級は 2016 年以降減少傾向を示しており、2022 年は 58 万尾となりました。採卵数は 1,545 万粒で計画数の 10% となっており、放流数も計画（1 億 2,540 万尾）を大きく下回ると見込まれます。

サクラマス

2023 年漁期の北海道における河川捕獲数は 11,507 尾（前年比 100%）となり、2000 年以降の平均の約 107%となりました。地域別には、オホーツク海区で前年比 116%、日本海区で 89%、根室海区で 75%、えりも以西海区で 187%と、オホーツク海区とえりも以西海区では前年を上回りましたが、日本海区と根室海区では前年を下回りました。採卵数は 527.0 万粒で、計画数の 81%となりました。なお、2023 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

※ベニザケについては、当機構が放流を実施してきましたが、水産政策審議会資源管理分科会における審議（令和 5 年 2 月）を経て、2023 年度計画分より放流が中止されることとなりました。

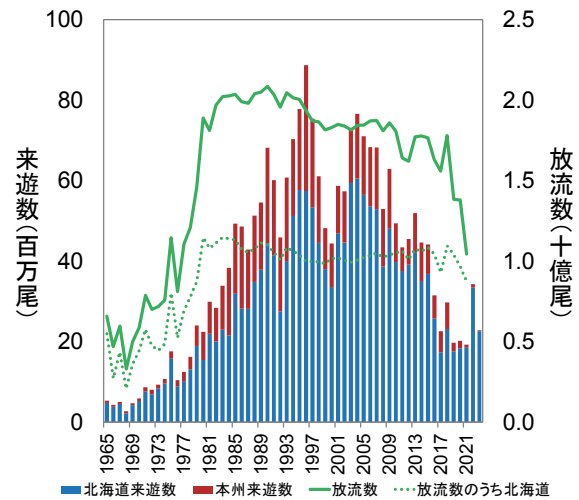


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数（2023 年漁期来遊数は 1 月 20 日現在）。

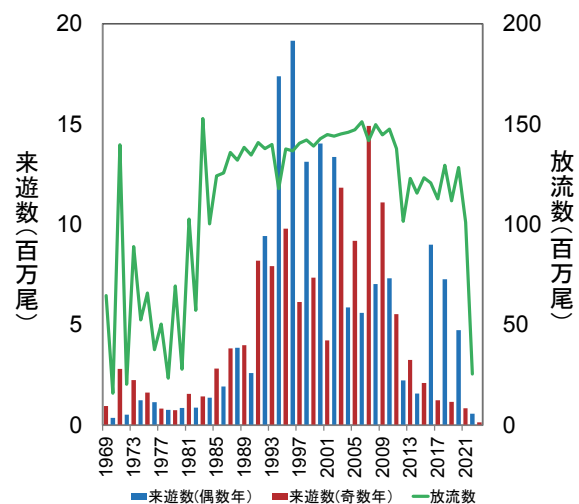


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

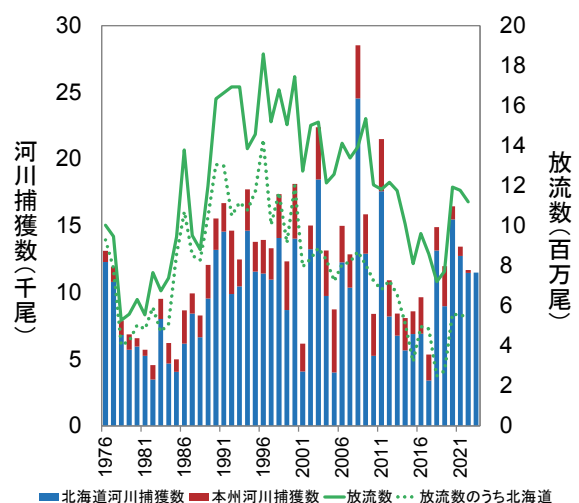


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数（2023 年漁期の本州河川捕獲数は確認中）。